
山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター

センターだより第135号(通巻第202号)

2015年4月27日 発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen-ml@yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

※このセンターだよりで紹介した研究会, 研修, 教育フォーラムに関するお知らせは, 改変しない限り, 自由に複写, 配布していただいて結構です。

■ センター長就任のごあいさつ

附属教育実践総合センター長 松森 靖夫

四半世紀前の話で恐縮ですが, 私の大学教員生活は, 他大学の教育学センター(現在の教育実践総合センターの前身)から始まりました。ほぼ同時期に山梨大学では附属教育実践研究指導センターが開設され, 改組後, 現在の附属教育実践総合センターに至っています。このような時の流れを鑑みる時, 今年度からセンター長を務めさせて頂くことに, 運命的な出会いを強く感じています。

これまで, 本センターでは, 教育人間科学部と附属学校園とが一体となって, 学校教育にかかわる様々な実践的課題を山梨県下の教育関係機関と連携・共同して研究を遂行し, その成果を通して学校教育の実践や教師の養成・研修等に大いに貢献して参りました。

また, 大学改革実行プランに示されているように, 教育研究機能の強化の一翼を担う本センターでは, 教員養成等のさらなる充実を志向しているところです。皆様には, 倍旧のご協力, ご支援を何卒よろしく願います。

■ 教育実践総合センターのスタッフに加わりました

教育臨床研究部門 教授 藤田博康

4月より教育実践総合センターの教育臨床研究部門の教員としてお世話になることになりました。私の専門は臨床心理学およびカウンセリングで, これまでは, スクールカウンセラーとして複数の公立学校, あるいは, 家庭裁判所, 臨床心理士養成の大学院などに勤務して参りました。山梨県は初めての地ということもあり, これまでの環境とは全く異なり, まだまだ戸惑いが先立つ毎日ですが, 皆さまに支えていただきながら, 少しずつ環境や業務に馴染んでいきたいと思っております。

現代の学校教育現場は, 子どもたちの意欲や規範意識の低下, いじめや非行, 不登校, 複雑な家庭環境や貧困など, 数多くの困難な問題を抱えています。このような中, 一人ひとりの子どもたち, 保護者の方々, そして教職員の先生方が, 少しでも生き生きと充実した日々を過ごしてゆけますよう, 微力ながら精一杯努めていきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

■ 教育実践総合センターのスタッフに加わりました

教育実践研究部門 教授 小林 大

この4月より山梨大学と県教育委員会との人事交流により教育実践総合センターにお世話になることになりました小林大と申します。新しい環境にとまどいながらも、身の引き締まる思いで充実した日々を過ごしています。3月までは甲斐市立竜王北中学校に勤務していました。また、県教育委員会で、主に小・中学校の国語科教育の担当をしていたこともあります。

今日、社会状況の急激な変化により、自尊心や自己肯定感の低下、いじめや不登校、携帯電話によるコミュニケーションへの影響など様々な教育課題が生じています。児童生徒へのきめ細かな対応はもちろん、保護者や地域、教育関係機関との連携など幅広い視野をもって取り組んでいくことが求められています。

そんな中、当センターの存在意義は誠に大きいものがあると思います。実務家教員の一人として、教育現場や行政の場で培ってきたささやかな経験を少しでもお役に立てるように、一生懸命努力していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

■ 着任のごあいさつ

客員教授 窪島 紀人

4月より川村直廣先生の後任として教育実践総合センターにお世話になることになりました。高校現場を離れて2年が経過しますので、一日も早く現職の意識を回復してしっかり勤めていきたいと思っております。

この4月から新しい教育委員会制度がスタートしました。戦後の教育行政の大きな転換だといわれます。制度の見直しは、大津市のいじめ自殺問題が一つのきっかけでした。教委の対応の遅さや責任の所在の不明確さ、教委の形骸化が批判され、教委の在り方が議論されてきました。今回の法改正は首長の権限を強化するものになっています。

今回の法改正のように戦後の抜本的な改革とさえいわれる改革が必要とされるほど、今日の教育をめぐる諸問題は深刻に捉えられています。様々な提言がなされ次々と教育改革が推進されてきましたが、その効果はまだ目に見えるものとはなっていません。

それでも、大変厳しい現実に向き合ながら日夜情熱を傾けてやまない多くの教員がいるのは、魅力にあふれた尊い職業だからだと思います。教員志望の学生には夢を持ち続け夢の実現に向かって欲しいと願っています。多くの関係の皆様方のご協力を得ながら、微力ながらお役に立てたらと考えていますので、よろしくお願いいたします。

■ 平成27年度全国教育（研修）センター等協議会のご報告

高度専門職業人である教員の力量形成を図るための教員研修が、国及び各都道府県教育委員会等で行われています。この協議会は、独立行政法人教員研修センター・各都道府県教育委員会等が教員研修の工夫改善について協議し、相互の連携を深めることを目的に開催されてきましたが、今年度から教員研修に関わる大学教員も参加できるようになりました。

4月15日（水）から17日（金）までの3日間、つくば市の教員研修センターで開催され、各都道府県・市町村教育委員会等の指導主事・研修主事ら79名、大学の教員研修担当教職員等44名が集い、本学実践センターからは松森靖夫センター長と成田雅博准教授が参加しました。

初日の15日は文部科学省の中岡司審議官による講義「新しい時代の教育」及び映画字幕翻訳者の戸田奈津子氏による特別講義が行われました。中岡審議官からは、「教育委員会制度」「コミュニティースクール」「小中一貫教育」「教育課程の改善」「高校教育改革」「教員の資質能力の向上」の6分野に関する教育行政に関する膨大な資料が提示・説明されました。

2日目の16日は以下のような研究協議が行われました。それぞれ、事例紹介の後、4人程度のグループで「なるほど、と参考になること」「研修の改善につながること」「事例紹介者にきいてみたいこと」を付箋に書いて話し合い、全体会場で事例発表者に各グループから発表し、それらに対して事例紹介者が回答・追加説明するといった形式で協議がすすみました。協議後には、各グループの付箋をホワイトボードに貼り参加者全員で共有されました。

研究協議Ⅰ 大学と教育委員会の連携・協働

事例紹介1 域協働型学校経営を支えるミドルリーダーの育成研修プラン 宮城教育大学

事例紹介2 ちゃぶ台次世代コーホート」等とおした連携協働の実際 山口大学

研究協議Ⅱ 教育（研修）センター等の特色ある取組

事例紹介1 「自立的自立研修」の活性化に向けた取組 千葉県総合教育センター

事例紹介2 校内研修を活性化させるためのリーダー育成研修について 高知県教育センター

研究協議Ⅲ 教員研修の課題を探る

事例紹介1 学校教職員と大学院生・学生が共に学ぶ自主セミナー型研修モデル

上越教育大学研究連携室

事例紹介2 ケースメソッド開発による次世代スクールリーダー養成の可能性 九州大学

3日目最終日の17日は研修運営の改善を図るための、ファシリテーション・スキルに焦点をあてた講義・演習・協議が行われました。

全国で行われている教員研修のすぐれた実践の概要や、教員研修に関する政策動向についての情報収集や、全国の教員研修担当者との個人的な情報交換ができ、有意義な協議会でした。

■ 教育ボランティアガイダンスのご報告

平成27年度戦略的プロジェクト―地域連携事業支援プロジェクト―教員志望大学生による支援事業として、本年度も教育ボランティア活動が実施されます。4月15日（水）に前期ボランティアガイダンスが開催されました。このガイダンスは学生運営委員会の学生によって企画・運営され、120人を超える学生が参加しました。

学生運営委員会委員長（小澤脩人さん、教育人間科学部生活社会教育コース4年）、松森センター長（ボランティア委員会委員長）の挨拶や活動概要の説明に続き、受け入れ先からの説明がありました。甲府市教育委員会など16か所の機関や学校が活動内容等について説明を行いました。

全体会ですべての受け入れ先からポイントになるところを話し、その後各ブースに分かれて詳細について説明を行いました。教育ボランティア全体の様子を学生、受け入れ先共に共有でき好評でした。

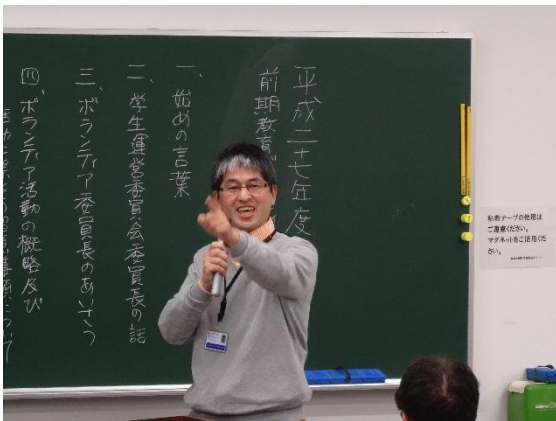
教育ボランティアは、半年・1年と長期にわたって同じ現場で子どもたちに関わるので、教育実習と違った体験や子どもたちの成長を見ることができます。ボランティア受け入れ先も年々増加しており、平成26年度は小中学校や教育機関など68か所になりました。将来、教員を目指す学生の皆さんが実践的な力を養ってくれることを期待しております。



松森教育ボランティア委員会委員長挨拶



学生運営委員会委員長挨拶



受入先からのガイダンスの様子



■ 山梨大学教育人間科学部「第1回教育相談室連絡協議会」のご報告

今年度最初の教育相談室連絡協議会が4月7日(火)に開かれました。この連絡協議会は本学部教員による附属学校園のためのスクールカウンセラーチーム及び附属4校園の教育相談担当者、非常勤のスクールカウンセラーにより組織されています。一昨年度より附属中学校には非常勤のスクールカウンセラーが配置され、昨年度からは相談回数を増やし、毎週1回相談に応じられるようになりました。また、附属中学校ではケース検討会議も年2回予定されています。その他、既に今年度の教育相談にも多くの相談が寄せられています。

■ 「地域連携 子どもと親と教師のための教育相談」・教育相談室に関するお知らせ

相談スタッフを募集します。学部の先生方には、教師からの相談に応じていただきます。新しく着任された先生やまだ登録をされていない先生方は是非、ご協力をお願いします。新規登録や相談日時の変更等は教育実践総合センター事務室まで電話、メールなどでお申し出ください。

■ 教育相談室に関するお知らせ

「教育相談室 (L-428)」及び相談室の備品をどうぞご利用ください

「教育相談室」のご利用に際しましては、事前に附属教育実践総合センター事務室 (J号館4F) にて空き状況を確認の上、ご予約ください。火曜日は附属教育実践総合センターが優先的に使用させていただきます。鍵はJ号館1階支援課にあります。利用された場合には、相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲー

ムなど備品も貸し出しております。借りる際には必ず使用ノートにご記入をお願いします。

これまでのセンターだよりの一部は、 <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。